

## 檜原村住民対話集会

令和5年9月29日（金）19：30～21：10

小沢コミュニティセンター

村側出席者：村長、副村長、教育長、総務課長、議会事務局長、産業環境課長、  
産業環境課主幹、企画財政係長（計8名）

参加人数：39人

### 《意見交換》

■移住してきた。令和4年に村民税の課税内容を確認し窓口にお問い合わせたら、課税が誤っていた。心配で前年度（令和3年度）も確認したら、これも誤っており誤課税の還付を受けた。自分で確認したが、本来は役場で前後の状況も把握するのが当然ではないか。また、大手のメガバンクを利用しているが、500万円程度を振り込むことができず、現金を引き出し納めなければいけなかった。基金が多くあるのであれば、こういったところも対応できるようにすれば良いのではないか。基金を使わないだけになっている。

■産廃問題で環境条例をつくると言っていたが、どうなっているのか。もう数か月経っているのに何も状況が変わらない。民間だったら、遅すぎる。進捗状況だけでも随時報告すべきではないか。

→【村長】

条例を制定できるよう、庁内担当職員には指示を出している。個人的にも条例について弁護士に相談している。

■檜原保存会という団体に聞いた。檜原苑跡地において水路の位置が公図と誤っているという。公図に合わせ戻してもらいたい。

→【村長】

面談の上、庁内で検討している。

■議会について、一般質問などをライブでインターネット配信できないのか。

→【村長】

議会と調整もある。設備の改修等、今後検討していく。

■過去に合併問題などがあったが、それ以降、村内に協働の視点がなくなってきている。ぜひ、このような集会を続けてもらいたい。

→【村長】

任期中は年1回もしくは2回行っていきたい。

- 村には、観光立村、南北トンネル、北部開発、合併浄化槽（下水以外の地域）など、過去の未解決事項が沢山ある。今後、早期にどうしていくのか説明してもらいたい。

→【村長】

指摘いただいた事項は今後検討、要望、調整を行っていく。

- 人口減少により現在、小学生の平均生徒数は9名前後である。小学生が多くいる地区は上元郷、上川乗、小岩である。小沢地区は、若い家族が住める広い住宅が無いので、それが原因だと考える。村として少子化対策をどう考えているのか。

→【村長】

土地の購入等も含め、様々なニーズを含めた政策を行っていく。

- 夏地地区は39世帯が高齢者世帯となっており、年々増加傾向にある。村として高齢者対策をどう考えているのか。

→【村長】

福祉担当の部署とも調整を行いながら、保健師・医師の見守り等を検討していく。

- 村のエコツーリズム事業は、なかなか進んでいないと思える。また、そもそもエコツーリズムとは、地域の資源を地元の人が活用し行うツアーだと思うが、現在のツアーガイドは村外の人が多いと感じる。提案として、五日市高校の生徒にツアーガイドをお願いし進めていくことがどうか？また、その後中学校の生徒などにも波及させ、将来のガイドを育成していったらどうか。

→【村長】

エコツーリズムについては関連部署と観光協会が取り組んでいる。五日市高校とは協定を結んでいる。

→【教育長】

生徒を収益が発生する事業に参加させることはハードルがある。故郷について学ぶ機会がもっとあれば良いとは考えている。今現在、生徒たちに教えている檜原学習だけでは、ガイドが務まるかどうかまでは難しい。

- 観光振興を進めている村にとって、役場担当職員と観光協会の職員数が少ないのではないか。現在、役場観光担当2名、観光協会2名前後といった状況だが、これでは何も進まない。せめて各5名前後は必要ではないか。

→【村長】

観光部署だけ増員を行うことをここでは約束できないが、必要であれば対策を行ってい

く。

- 村周辺の自治体の財政調整基金残高を調べた。村の規模からして基金残高が多過ぎる。今後、基金を使用した事業をどのように要望を受けて事業化しようと考えているのか。村の規模を考えれば8億ほどが適正なのではないか。

→【村長】

財政調整基金は25億7千万ほど、基金全体では57億円ほど積み立てている。基金残高が多ければ、国も村に対し動向を注視するので検討していくが、むやみやたらに使っていくべきものでもない。土地の取得にも使うことができればと考えている。予算編成も住民の方の意見を計画段階で取り入れながら行っていきたいし、職員にも伝えている。

- 小沢コミュニティセンターは災害時の避難所となっているが、裏山の安全性はどうなっているのか。

→【村長】

裏山の工事はすでに始まっている。工事が終われば安全性は確保される。

- 提案として、もっと雇用の場として村内の山林を活用した事業を増やした方がいいと思うが、村の考え方を示してもらいたい。山についてはもっと広葉樹林を増やした方がいいのではないか。また、山頂付近には実のなる広葉樹を植樹し、動物とのすみ分けを進めてもらいたい。

→【村長】

村の面積93%が山林、そのうち66%が植林で、植林部分はどこでも伐採して利用可能にはなっている。現状は山の仕事に対応する人が増えている。村でも様々なかたちで、山の仕事に対する予算を3億円ほど計上している。針葉樹を減らし広葉樹を増やしていきたい。花粉の少ない木については現在植えている。経済林から環境林へと役割変化している中で、事業を加速させていくことは難しいと考えている。

- 過去に公民館的機能をもった図書館を作るといったが、そうではなかった。昔は学校区ごとに校庭がコミュニティの場であった。現在は、自由に集まれる・学習できる場がない。コミュニティスクールの概念をどう考えているのか。また、学校区の対象をお尋ねしたい。

→【教育長】

社会教育は様々な範囲全てできればいいとは考えているが、現在職員は1名しかおらず難しい部分はある。コミュニティスクールについて、地域の中で、地域の方に助けていただく学校という認識。檜原も状況は近いものがある。すでに学校運営協議会が小学校・中学校で設置されており、地域の方の意見を取り入れている。国の指示としては地域が学校を応援しなさいという趣旨なので、学校がコミュニティを形成するのは難しい。学区は村

内全部が対象である。

- 村では、交通不便地域として村内の7地域を示した。各地域では、デマンドバスや福祉モノレール設置など対策が進められているが、一部では何も対策されていない地域がある。村内の交通不便地域全体の支援について、どう考えているのか。また社会福祉計画を以前見せてほしいとお願いしたら、窓口ではホームページを見てほしいと対応された。

→【村長】

免許返納された方にもデマンドバスやデマンドタクシーの利用推進など、交通会議で検討していく。

- 昔、山野草の会があり、「ムラサキ」を守ってきた。現在、私がムラサキを将来に残していく活動をしているが、村として固有種保存のために協働を進めてもらえないか。また、このような保存を担当する部署をつくってもらいたい。

→【村長】

教育委員会でも補助金等を出しているが、村としてお手伝いすることはできない。必要な財源等で応援する形はできるので、相談していただければと思う。

- 今回の住民対話集会はいいことだが、できれば自治会単位で実施してもらえないか。各地域の高齢者の意見も聞いてもらいたい。

→【村長】

検討はするが、難しい。全自治会ではなく必要箇所に行くことは可能性がある。

- デマンドバス藤倉線の廃止の話聞いた。村長としてどう考えているのか。

→【村長】

利用者数実績は落ちている。その路線に対して費用をかけるのか、交通不便地域の方を見過ごすのか、難しい部分はあるので地域との相談を含め検討したい。

- 今回の産廃問題では、村にばかり任せはいけないということ学んだ。また、今後ゴミを減らしていかなければという意識が高まった。他では、廃油やオムツなどを資源化しているところもある。ゼロウエストを公約に掲げている村長としてどう考えているのか。

→【村長】

ごみの1人あたりの排出量は都内でもトップクラス。どうやったら減らせるかを担当と相談している。ゼロウエストが行われている徳島県の上勝町に視察に行く。自然を守っていくという観点で、環境保護に対して、村として姿勢を見せなければと考えている。

- 基金の活用として、現在では急激な物価上昇などもあるので、慎重に計画し活用してもらいたい。

■公共交通について、村の中心となっている路線バスをもっと乗りやすくしてもらいたい。

■60代、70代が活躍できる場をつくってもらいたい。

■おもちゃ美術館や檜原ファクトリーを村長はどう考えているのか。

→【村長】

おもちゃ美術館について、トイビレッジ構想の中で事業を行っている。木の活用についても大事なことなので進めていければと考えている。おもちゃ工房についてももう少し機能させていきたい。檜原ファクトリーについて、焼酎は品薄状態が続いているので需用と供給のバランスを考えて製造していきたい。

■今回の対話集会だけでは、声を上げたい人だけの意見を聞くことになってしまう。村長として全体の声を拾う必要があると思うが、どう考えているのか。

→【村長】

一通りやってみて、子育て世代や高齢者の方が参加しにくいという声があった。その点については開催時間等を調整・検討していきたい。

■今回の対話集会を終えて、役場の職員の方の感想を伺いたい。

→【副村長】

村長と直接話す機会が、我々は聞き役の立場で参加した。今回は皆様に集まっていただき、村長の考えを聞いていただいたということで、非常に価値があったと考えている。

→【総務課長】

私は2回参加した。想定していたよりも大勢の方に集まっていただいた。住民の方が新しい村政に期待していると感じた。みなさんの意見を参考にしながら村政に反映していきたい。